

平成 8 年 3 月
9 卷 1 号

日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

日口腔インプラント誌

J. Jpn. Soc. Oral Implant.

ISSN 0914-6695

1996

日本口腔インプラント学会

C-25. 人工歯根植立, 自家骨移植,
組織伸展, GTR による
歯槽骨造成を行った 2 例
(市川インプラント研究所)
日高 豊彦, 清水 治彦, 岩野 清史
渡辺 孝夫

人工歯根の植立に際し十分な骨量と形態の良い顎堤の存在は重要な要件の 1 つである。今回われわれは人工歯根植立時に自家骨ブロックをスペーサーとし, ゴアテックス膜 (GT 膜) を用いた GTR による骨造成術を 2 例経験した。これらの術式の臨床的な有用性を検討したので報告する。

症例 1: 31 歳, 男性, 74~1|24~7 654|67 欠損, 5|C4, 4~1| 部歯槽堤高度吸収。全身麻酔下 5| 抜歯, 5~1| 歯槽骨露出, 歯槽骨は鋸歯状を呈し, 頂部は口蓋側に位置していた。3| と 1| に当該歯牙が存在していた状態を想定し人工歯根 (Screw Vent Implant) を植立した。次いで 8 相当部より骨ブロックを採取, 3~1| 人工歯根唇側に移植, チタンスクリューにて歯槽骨に固定した。その後 GT 膜を被覆, ティッシュエキスパンダーにて伸展した粘膜骨膜弁

で被覆，縫合した。本手術では同時に 7 サイナスリフトを施し，75|67 にも同人工歯根を植立した。植立術後 7 カ月 GT 膜摘出，同 1 年後アバットメント装着，同 14 カ月後上部構造を装着した。

症例 2：34 歳，男性，21|2 欠損。同部歯槽堤高度吸収。全身麻酔下 21|2 歯槽骨露出，歯槽骨は鋸歯状を呈し，頂部は口蓋側に位置。このため，21|12 に天然歯の植立状態を想定し人工歯根（Screw Vent Implant）を植立後，下顎オトガイより小骨ブロック 2 片を採取，それぞれ 21|12 人工歯根唇側に移植，チタンスクリューで歯槽骨に固定した。その後 GT 膜を被覆，予め伸展した粘膜骨膜弁を復位，縫合した。植立術 6 カ月後 GT 膜摘出，同 7 カ月後アバットメント装着，同 8 カ月後上部構造を装着した。

まとめ：本術式は人工歯根植立時に自家骨ブロックを骨形成能のあるスペーサーとし，GTR による骨造成をねらったものである。1 回の手術で人工歯根周囲に必要な新生骨が得られることなど臨床上の有用性が考えられた。